

士法改正後初めての建築士試験を経て ～キャリアパスの潮流と変化～



岸 隆 司◎総合資格学院 学院長

◎受験資格緩和がもたらしたインパクト

私たちを取り巻く環境はここ一年で大きく変化しました。その主な理由はいうまでもないでしょう。建設業界では、大きな課題の一つであった「働き方改革」が、テレワークの推進、普及で一気に加速しています。しかしながら、「技術者不足」という課題は、未だ解消に至っていないのが実情です。この背景には、業界における高齢化と若者離れの加速、またこれに起因する人手不足の深刻化があります。

建設業は国づくり・都市づくりの根幹をなすだけに、技術者、特に若年層の技術者不足の解消は、官民を挙げて取り組むべき喫緊の課題となっています。当然ながら、誰もが技術者になれるわけではなく、技術者には資格が必須であり、技術者不足を解消するには、資格試験の受験者数の拡大、またそれに伴う資格取得者数の拡大が一つの方法といえるでしょう。

2020年度には、建築士法改正による受験資格の緩和、実務経験の対象範囲の拡大が図られた新しい試験制度がスタートしています。特筆すべきは受験資格の緩和です。これまで建築士試験の受験に必要とされていた実務要件が免許登録要件となり、これにより最終学歴が大学なら1級建築士を、工業高校なら2級建築士を、卒業後すぐに受験できるようになりました^{注1)}。この難関国家資格試験の新たな動きは、建設業界でキャリアパスを模索する方々はもちろん、業界を目指す学生や技術者を必要とする企業にとっても大きなインパクトになったのではないのでしょうか。実際、新たな需要が喚起されており、1級建築士学科試験の受験生は30,409名と前年度(25,132名)から5,000名以上の大幅な増加となっています。

◎建築士合格は「新入社員の最初の仕事」

2020年度の建築士試験の結果をみると、合格者数を学科試験と設計製図試験の合計受験者数で割った

総合合格率は、1級建築士で10.6%、受験生の10名に1名、また2級建築士で26.4%と受験生の4名に1名の合格にとどまっております。新試験制度となり、建築士試験全体の受験者数が増加しても、難関国家資格試験ということに変わりはありませんでした。

しかしながら、年齢別の合格者属性では大きな変化がみられます。20代(以下)の若年層の受験者は年々シェアを拡大してきており、これに伴って合格者における比率を伸ばしてきました。2020年度は1級建築士の合格者シェアに大きな動きがあり、2016年度でこそ20代は4割程度でしたが、2020年度では新試験制度が推進力となり、約6割を占めるに至っています(図1)。新試験制度の貢献度合いは大きく、試験実施機関が発表した合格者の平均年齢は、2019年度が31.8歳であったの対して、2020年度は30.3歳と明らかな若返りを果たしています。

特に、大手のゼネコンやハウスメーカーなどでは、建築士資格の早期取得が推奨されており、建築士合格を「新入社員の最初の仕事」として取り組む企業もあるほどです。建設業界は新型コロナウイルス感染拡大の影響が他業界と比べて少ないとはいえ、この状況下での就活、またさらにその先のキャリアパスを見据え、受験資格のある学生は積極的に資格取得に動くことが予想され、受験生、そして合格者の若返りは加速していくものと思われます。

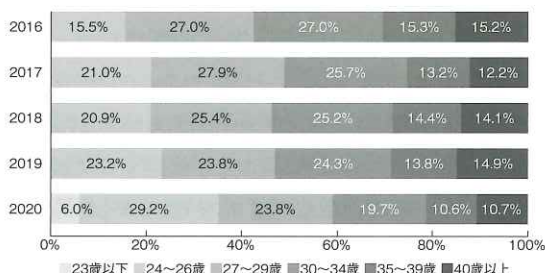


図1 2020年度1級建築士設計製図試験合格者の属性 年齢別の推移

◎合格実績「日本一」がめざす100%

2020年度の当学院における1級建築士試験の合格実績をみると、全国合格者の「2名に1名以上」(全国合格者3,796名中、当学院当年度受講生2,041名、合格者占有率53.8%)を、また、学科試験と設計製図試験を1年で合格したストレート合格者の「6割以上」を当学院の当年度受講生が占め(全国ストレート合格者1,696名中、当学院当年度受講生1,095名、合格者占有率64.6%)、「日本一」の合格実績を達成し続けています。さらに、受験生シェアの中心となっている20代の全国合格者でも、6割を当学院の当年度受講生が占め(20代全国合格者2,238名中、当学院当年度受講生1,332名)、こちらも「日本一」の合格実績となっています。

優れた実績を上げ続けることができるのは「合格すること」はもちろん、合格のその先を見据え、有資格者としてすぐに実務で活躍できる「真の技術者」の育成を目指した内容の講座や教材を展開しているからです。そして、創業以来こだわり続けてきた「人と人が向き合う講義—ライブ講義」だからこそ実現できた、受講生一人一人に寄り添った『真の個別指導』の賜物であると自負しています。また、「令和の大改革」と称し、講習システムのさらなる強化を推進してきたことも、実績を大きく牽引した要因の一つであり、今後も受講生の「ストレート合格者占有率100%」を目標に掲げ、改革を推進していきます。

この目標の「ストレート合格者占有率100%」の実現には、「学科試験対策」が重要だと考えます。その理由は、学科試験の高得点合格者は、設計製図試験で合格率が高い傾向にあることがわかっているからです。学科試験において安全圏で合格を勝ち取った当学院の受講生は、1,000時間以上の学習時間を確保しており、家庭や日々の業務に追われる中で、いかに学習時間を確保し、効率よく知識を定着するかが課題となってきます。

当学院では学習時間の確保に向け、いつ何をすればよいかが一目で把握できる、学院独自の「今年絶対合格するダイアリー」を用意しています。言うなれば受講生と講師・教室マネージャーらとの交換日記です。「ライブ講義」を補完し、『真の個別指導』をより充実したものにしています(図2)。

さらに、記憶が新しいうちに徹底した反復学習を行うことで、短期記憶を長期記憶へと変化させ、確実な知識定着によって得点アップへつなげる独自の学習システム「合格サイクル+継続学習」により、受講生は学習のスケジュールや手順などで頭を悩ますことなく、また貴重な時間を無駄にすることなく、効率的な実力アップを図っています。2021年度はさらに講習システムをブラッシュアップすることで目標達成に邁進していきます。



図2 学習時間の確保に向け、いつ何をすればよいかが一目で把握できる「今年絶対合格するダイアリー」を用意。「ライブ講義」を補完し、『真の個別指導』をより充実したものにします。

◎技術者育成の責任を背に高く掲げる理念

今、技術者そのものに求められているのは実務的な能力に加え、倫理面においても高い資質です。これは技術者が活躍する建設業界に対して、高い信頼性を求める声が大きくなっているためです。資格指導校として「技術者育成」という役割を担う私たちの責任は、受験生の増加に伴い、一層増したといえます。

「日本で最も多くの1級建築士合格者を輩出し続ける教育機関として、No.1の教育プログラムと合格システムを常に進化させ、ハイレベルなスキルと高い倫理観をもつ技術者の育成を通じ、建設業界そして社会に貢献する」

これが私たち総合資格学院が今、掲げる理念です。創業40余年、これまでの実績に甘んじることなく、「今こそ出発点」の気持ちのもと、昨日より今日、今日より明日と、常に改革・改善に尽力していく所存です。そして、資格取得はもちろん、実務で活躍できる「真の技術者」の育成により、理念を体現すべく、さらに研鑽を積んでまいります。

(きし たかし)

注1) 学校等、学歴要件・実務経験要件、必要単位数、またその詳細等は、試験実施機関である(公財)建築技術教育普及センターの受験の手引きや同センターホームページをご確認ください。